

Title	2013年度『学会賞』選考結果
Sub Title	
Author	倉田, 敬子(Kurata, Keiko)
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2013
Jtitle	Library and information science No.70 (2013.) ,p.227- 228
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000070-0227

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2013 年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長

倉 田 敬 子

三田図書館・情報学会学会賞は、会誌である Library and Information Science に掲載された優れた論文の著者に与えられる賞です。本年度は 68 号と 69 号に掲載された原著論文 7 編を対象に厳正な審査を行った結果、以下の論文を学会賞として選考いたしました。

木村麻衣子

中国人・団体著者名典拠データの表記の相違：中国，日本，韓国を中心に、

Library and Information Science. 2013, No. 69, p. 19-46.

本論文は、単一の個人・団体に対して複数の表記が存在する漢字文化圏における著者名典拠データの共有の問題について、特に中国人・団体の表記の問題に関して、中国、日本、韓国での扱いを詳細に調査し、その課題を整理したものである。

中国、日本、韓国 3 カ国それぞれにおける主要な典拠データ作成機関を複数選定し、各機関における表記の扱い、具体的には漢字形の文字種、ローマ字形の種類と扱い、姓名の分かちとそれを区切るカンマの有無、中国以外の地域における現地語表記（カナ読み、ハングル読み）の有無と表記法、の各項目について丹念に比較し分析を行っている。研究を遂行するために各機関において使用されているマニュアルや作成された典拠データ、その他を収集し、丁寧に分析を加えた結果、漢字形の文字種や異体字のばらつき、漢語ピンインによるローマ字形表記のゆれ、姓名の分かちの有無と漢字形・ローマ字形表記との関係などの問題点を明らかにしている。

国内でも数通り、国をまたがったときにはさらに多様な表記となりうる漢字文化圏特有の状況下において、これまで各国内での表記法など、限定された範囲の調査と検討はなされてきたが、漢字文化圏全体を対象にした研究は皆無であった。本研究は著者の語学力をもってはじめてなした成果であり、また多数の機関にわたるマニュアルおよび実データの収集、項目ごとの丁寧な分析などに基づく現状と課題の整理結果は、今後実際にデータ共有を図る上での基盤的なデータとなることは明らかであり、この点は高く評価されるべきものとする。

他方、難を言えば、表記の問題に限定され、その他の典拠データ項目については調査分析の対象に含めていないこと、また基本的に課題の整理にとどまっており、その解決の方向性や具体的手法の検討には至っていないことを指摘できるが、得られた成果はそれを補って余りあるものである。

今後、日本人・韓国人・ベトナム人とその団体についても同様の調査と課題整理がなされ、漢字文化圏全体における典拠データ共有に向けた課題が明確化され、具体的な対応策の策定を促進する成果となることを期待して、本論文に学会賞を授賞することとした。